

# 大谷本願寺派「宗学堂」 得度者 着実に増やす



得度式で大谷暢順法主から「剃髪の儀」を受ける初等科の修了者

浄土真宗大谷本願寺派 運営する仏教学院「宗学  
本山本願寺(法主)大谷 堂」が2008年の開校  
暢順・本願寺文化興隆財 以来、受講者を着実に増  
団理事長)の別院、眞無 やしている。  
量院(京都市下京区)が 宗学堂は同派僧侶を目

指す専修課程と仏教や真宗を学ぶ学習課程があり、それぞれ初等科(1年)▽中等科(2年)▽高等科(終身、専修課程は「勸学課程」)が設置されている。

宗旨を問わず受講でき、講義は社会人の生活様式に配慮して土・日・祝日に開講。「知識ではなく、心を学ぶ」方針から対面授業が基本で、通信教育は行っていない。

本山での奉仕活動など「体験」を重視しているのも特徴という。受講生はインターネットでの告知に加え、口コミによる応募も少なくなく、開校以来の総数は約

900人。このうち今年度までに144人が得度した。当初数人だった得度者は増加傾向にあり、昨年と今年は20人以上。現在は眞無量院に加えて東京と福岡の計三つの教場を構える。

同院の大谷浩文執事長は「現代は教化活動をきちんとしていない寺が多く、寺に行っても教えを聞けない。とって大

学に入り直して仏教を学ぶのはハードルが高い。そんな思いで入学し、宗学堂に出会えて良かったという方が多い」と説明。「宗学堂の運営は経済的には厳しいが、こうした活動こそ寺院がやらなくてはならないものだと確信している」と話す。

今年度の得度式は4日に京都市山科区の東山淨苑東本願寺で営まれ、初等科を修了した20人が暢順法主から「剃髪の儀」を受けた。

弁護士金沢幸彦氏(48)「東京都北区」は「多忙な弁護士業務をこなす中で人生について深く考える機会が欠如してきているのを感じていた」と受講・得度のきっかけを説明した。

(池田圭)